

児童・生徒指導についての自己チェックリスト（逗子市立 学校）

氏名	助言者	第1回実施日	月	日	( )
		第2回実施日	月	日	( )
		第3回実施日	月	日	( )

	I 子どもとの関係づくり	*1人権	実施	自己評価	必要度	
		①	どの子にも、笑顔であいさつするなどの声かけをしている	※		A B C
	②	授業時間以外にも、できるだけ子どもたちと過ごす時間をつくるようにしている			A B C	
	③	子どもの好きなことや得意なこと、夢中になれることなどを把握している			A B C	
	④	「しっかり！」などのあいまいな表現よりも、「具体的な行動」を指示している			A B C	
	⑤	どの子にも丁寧な言葉づかいで接し、子どもの話を最後まで聴いている	※		A B C	
	⑥	自分が間違ったときは、子どもに対しても「ごめんね」などと謝るようにしている	※		A B C	
	⑦	どの子にも、「ありがとう」「助かったよ」などの感謝の言葉を伝えている	※		A B C	
未然防止の取り組み	II 子どもの適切な行動に着目する	*1人権	実施	自己評価	必要度	
	①	どの子にも適切な行動をした時には、「できているね」などと声かけをしている	※		A B C	
	②	目立たなくても適切に取り組む子どもに着目し、 <u>*2肯定的な声</u> をかけている			A B C	
	③	子どもの興味や目標を把握し、「がんばっているね」などと応援している			A B C	
	④	給食準備や清掃などの活動を子どもとともにやり、 <u>*2肯定的な声</u> をかけている			A B C	
	⑤	提出物を返却する際には、 <u>*2肯定的な言葉</u> をかけている			A B C	
早期発見・早期対応	III 生活規律やルールの定着	*1人権	実施	自己評価	必要度	
	①	時間通りに授業を始めるなど、自ら子どもたちのモデルとなるよう行動している			A B C	
	②	「～してはいけない」よりも、「～しよう」という声かけをしている	※		A B C	
	③	集団の中で適切な行動をしている子どもを認め、全体のモデルとしている			A B C	
	④	不適切な行動をしたときは、 <u>*3適切な行動</u> が何かを子どもに問いかけて確認している	※		A B C	
初期対応	IV 観察と連携した対応	*1人権	実施	自己評価	必要度	
	①	子どもの表情やしぐさ、他者との関わり方などを観察し、変化をとらえている			A B C	
	②	授業になかなか取り組めない子どもでも、参加できる場面を用意している			A B C	
	③	他者との関わりの薄い子どもに、意図的に話しかけている			A B C	
	④	遅刻や欠席の多い子どもについては、養護教諭などと連携し早めに対応している			A B C	
	⑤	子どもの変化について、学年会で情報共有を図り対応を検討している			A B C	
初期対応	V トラブルや問題行動への対応	*1人権	実施	自己評価	必要度	
	①	「何をやっているんだ！」よりも、「どうしたの？」とまず子どもの話を聴いている	※		A B C	
	②	問題解決の優先順位を、学年や学校の教職員間で共有している			A B C	
	③	問題行動を発見したら、他の先生や管理職にすぐ連絡している			A B C	
	④	三日間欠席が続いた場合は、家庭訪問などをして本人の様子を把握している			A B C	

I～Vの各項目（①～）は、最も基本的な対応から順に配列してあります。

<説明>

\*1 「人権」欄に※のついている項目は、特に子どもの人権に配慮すべき項目として設定しました。

\*2 II「子どもの適切な行動に着目する」の各項目文中の \*2 \_\_\_\_\_ についての具体例：

「配膳がんばってるね」「今の掃除の仕方いいね」「ノートしっかり書けてるね」「今回、漢字が書けるようになったね」など、できるだけ具体的に子どもの行動を認める声かけのことです。

必ずしも「ほめる」必要はありません。「君のことを見ているよ」というメッセージを伝えることが大切です。

\*3 III④について、不適切な行動を「注意してはいけない」という意味ではありません。むしろ「どうすればよかったか」を子どもに妥協せず考えさせる「厳しさ」が必要です。